

# 夕焼け

新井美羽

前原 滉

・  
石野真子

空も見上げず  
歩いていた



# 夕焼け企画のねらい

## 「ケアラー～だれもが人権尊重される社会を～」

今回の作品のテーマは、「ケアラー～だれもが人権尊重される社会を～」です。

相手が家族や親しい人であっても、毎日誰かの介護や世話をすることは、身体的、精神的、さらに経済的にも大きな負担がかかります。特にヤングケアラーは、学校に通い、教育を受け、友人と交流を通して成長する重要な時期であるにもかかわらず、その状況が周囲から見過ごされることが多いという問題があります。

主人公・瑠依は、幼い弟の世話や家事に追われる生活にしんどさを感じつつも、「家族のことは家族でするのが当たり前」という思い込みから、気持ちを押し殺して生活しているヤングケアラーです。しかし、元ケアラーの灯との交流によって、自分の状況や本当の気持ちについて見つめ直し、将来に向き合うための一歩を踏み出します。この作品では、お互いを気にかけて、人と人がつながっていくことが、ケアラーと家族が抱える問題解決の糸口になる様子を描きます。

ケアは他人事ではありません。だれもがケアする側にもケアされる側にもなります。年齢属性を問わず、共に助け合える『だれもが人権尊重される社会』の実現をめざすことを目的として、人権啓発ドラマを制作しました。

## あらすじ

### 1

青野瑠依は中学二年生。放課後になると友だち光葉たちのおしゃべりも早々に切り上げて、家路を急ぐ。帰宅すると、家事や弟の虹太の世話をしている。父親は病気で入退院を繰り返して、母親



の咲子が日夜働いて家計を支えている。虹太を迎えにいった帰り道、瑠依は、小学生の時に担任だった佐藤 灯と再会するが、足早に立ち去ってしまう。

### 2

灯は、かつて正式採用を目指して教員として働いていた。しかし、親代わりだった祖母が認知症になったことで退職し、介護中心の生活を続けてきた。祖母が他界し、就職活動を始めようとする灯だが、



三年の空白が重荷になり二の足を踏んでいる。ある日、灯の祖母が通っていた美容室の店主、世良歌絵が訪ねてくる。夫を介護してきた歌絵は、灯の心境を理解し、寄り添う。

### 3

中間テスト当日、瑠依は、虹太の荷物を忘れて困っているところに、灯と光葉の母親の彩佳が通りかかり、手を差し伸べる。そこで灯は、彩佳から瑠依の家庭の事情を知ることになる。



### 4

灯から話を聞いた歌絵が、瑠依は『ヤングケアラー』ではないかと言う。今の瑠依の状況をかつての自分に重ねる灯。そんな灯に歌絵は「ケアラーをケアする居場所」というカフェの企画を進めていることを告げ、手伝ってくれないかと誘う。



### 5

様々な出来事が重なり、溜め込んだ不安と自己嫌悪から公園で落ち込む瑠依。その姿を見かけた灯は思わず声をかける。灯は自身の経験から、「一人で頑張るのはしんどかった。助けてって言えればよかった」と語った。その言葉は瑠依の心に響く。



### 6

瑠依の力になりたいと考えた灯は歌絵に、カフェで、子どもたちの学習支援もできないかと提案して…。



プロデューサー / 久慈麗人    脚本 / 山上梨香    監督 / 田口仁

関東営業推進室 〒104-8108 東京都中央区銀座 3-2-17 ☎03-3535-3631  
関西営業推進室 〒530-0001 大阪市北区梅田 1-12-6 ☎06-6345-9026  
広島出張所 〒730-0015 広島市中区橋本町 5-2 ☎082-511-2066

● お買上げは